

2006年防災教育チャレンジプラン最終報告書

記入日 2007年 01月 20日

I 概要

実践団体・担当者名	京大防災教育の会（KIDS）（担当者：村田庸介）
連絡先	携帯電話（村田庸介）090-9617-6080
プランタイトル	模型を作ろう！
目的	実際に遭遇してみないとなかなか身近なものとして捉えられないことも多い地震災害について、少しでも実感できるようなかたちで学んでもらうことによって、自分自身もしくは家族ぐるみで防災の必要性を感じてもらうことを目的としている。また、地域の人々が一同に会することにより、災害の時に重要とされる地域での助け合いの意識を向上させ、地域の住民間のつながりを深める機会になると考える。
プランの概略	<p>特定の地域在住の親子数組を対象に防災に関する授業（防災教室）を行う。 授業内容に関しては、災害についての基礎知識の教育に始まり授業全体のまとめを説明して授業を締める、というごく基礎的な内容である。</p> <p>KIDS 独自の取り組みとしては、プログラムの中に「模型づくり」作業、阪神淡路大震災の体験談、起震車体験、「高校生」による防災の取り組み紹介などがある。これらの様々な刺激を盛り込むことによって、この授業自体を強く印象付け、「防災」というテーマに興味を持ってもらうのがねらいのひとつである。</p> <p>9:30～11:30 KIDS による防災教室 プログラム内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. KIDS による基礎教育 2. 高校生による防災の取り組み紹介 3. 阪神淡路大震災の被災体験談 4. 起震車体験 5. 模型作り 6. 授業全体のまとめ <p>今回は集大成として本プランを取り上げるが、その他にも 2006年2月 京都市立音羽川小学校 2006年6月 名古屋市立楠小学校 2006年9月 インドネシアの小学校（ジョグジャカルタ・アチェ） 2006年10～12月 京都市立伏見工業高等学校 2007年1月 インドネシアの講師を京都大学に招いて 上記で、防災教室を実施（各場所によってプログラム内容を多少変更している）</p>
プランの対象と参加人数	<p>地域（今回は左京区）在住の親子計 約20人 ←本プラン対象者</p> <p>左京区役所関係者 2人 左京消防団関係者 2人 京都市立伏見工業高校関係者 10人 KIDS スタッフ 11人 報道関係者 2人</p> <p>←本プランスタッフ</p> <p>計 約50人</p>
実施日時	2006年11月18日（土）
主な実施場所	京大会館（京都市左京区吉田河原町）
連携した団体名、	連携団体の有無 有り

連携の方法	連携した団体名	①左京区役所 ②左京消防団 ③京都市立伏見工業高等学校 ④NPO 法人京都こどもセンター
	連携したきっかけ・理由	①左京区民を対象とするにあたって、協力を依頼した。 ②プログラムに起震車体験が必要となり、協力を依頼した。 ③もともとは高校生に対する防災教育の依頼を受けたのがきっかけで、協同でプランを実施できたらおもしろいと思い、協力を依頼した。 ④教育機関とつながりをもっておられて、告知に協力いただきましたかった。
	連携団体へのアプローチ方法	①「大学と地域の協働」という事業を通じて面識を持った。 ②直接うかがい協力を依頼したところ、快諾を得た。 ③伏見工業高校にて、全3回となるワークショップを行った。その一環として、本プランに参加していただいた。 ④ある広報のセミナーで面識を持った。
	連携団体との打合せ回数	①1時間×2回 ②0.5時間×3回 ③2時間×4回 ④1時間×1回
	連携団体との役割分担	①プラン全体を通してのアドバイス・援助や本プランの広報活動に協力いただいた。 ②起震車を出動いただき、プログラム「起震車体験」を担当いただいた。 ③プログラム「防災の取り組み紹介」を担当いただいた。また、プログラム全体を通して、スタッフ側として補助していただいた。 ④学校や PTA などの教育機関に対し、プランの告知をしていただいた。

II プラン立案過程

プラン立案メンバーの人数・役割	団体内のスタッフ総人数	8名
	外部スタッフの総人数	0名
	主なメンバーの役職・役割	責任者 為季あずさ (KIDS) 伊与田有子 (KIDS) 企画・立案 横井千晶 (KIDS 元会長)
プラン立案に要した日数・時間	立案期間	2005年12月～2006年1月, 2006年8月
	立案時間	約10時間
	上記のうち打合せ回数	定例2時間 × 8回

<p>プラン立案で 注意を払った点 工夫した点</p>	<p>○より刺激的なプログラムを立案した。(例:体験型イベントを増やす) ○子供でも理解でき、親近感の湧くプログラム内容を考えた。(例:模造紙による手作りの教材、ひらがなを多く使う、イラストを多く使う) ○上記かつ、子供達の親の防災意識向上も図れるような授業を考えた。(例:子供が親に質問するようなきっかけをつくる授業) ○授業終了後、家に帰ってから親子で話し合いの機会を与えられるような素材を授業のアウトプットとして与えた。(例: KIDS 新聞や作成模型などの持ち帰り) ○揺らすと変化するジオラマ模型を簡単に作成できるキットを考案した。 ○プランは祝日に行い、親の参加を啓発した。</p>
<p>プラン立案で 苦労した点</p>	<p>○KIDS オリジナルの模型作成プランの立案 ○参加者の募集方法 ○より効果的な参加型授業の立案 ○活動場所の確保 ○関係機関との連携 ○子供に体験型イベントをさせる際の安全面の考慮</p>

Ⅲ実践にあたっての準備

<p>準備に関わった方 と人数・役割</p>	<p>団体内のスタッフ総人数</p>	<p>10 名</p>															
	<p>外部スタッフの総人数</p>	<p>15 名</p>															
	<p>主なメンバーの 役職・役割</p>	<table border="0"> <tr> <td>責任者</td> <td>伊原健郎 (KIDS 会長)</td> </tr> <tr> <td>模型下地作り</td> <td>伏見工業高校の皆さん 桑野靖子 (KIDS)</td> </tr> <tr> <td>アドバイザー</td> <td>田中和人 (左京区役所) 那須田潔 (左京区役所)</td> </tr> <tr> <td>プログラム責任者</td> <td>石原洋平 (KIDS) イチエ (KIDS) フィトラ (KIDS)</td> </tr> <tr> <td>企画</td> <td>堤内隆広 (KIDS 書記)</td> </tr> <tr> <td>渉外</td> <td>長神新之介 (KIDS 副会長)</td> </tr> <tr> <td>事務</td> <td>横山正明 (KIDS)</td> </tr> <tr> <td>広報</td> <td>村田庸介 (KIDS 広報)</td> </tr> </table>	責任者	伊原健郎 (KIDS 会長)	模型下地作り	伏見工業高校の皆さん 桑野靖子 (KIDS)	アドバイザー	田中和人 (左京区役所) 那須田潔 (左京区役所)	プログラム責任者	石原洋平 (KIDS) イチエ (KIDS) フィトラ (KIDS)	企画	堤内隆広 (KIDS 書記)	渉外	長神新之介 (KIDS 副会長)	事務	横山正明 (KIDS)	広報
責任者	伊原健郎 (KIDS 会長)																
模型下地作り	伏見工業高校の皆さん 桑野靖子 (KIDS)																
アドバイザー	田中和人 (左京区役所) 那須田潔 (左京区役所)																
プログラム責任者	石原洋平 (KIDS) イチエ (KIDS) フィトラ (KIDS)																
企画	堤内隆広 (KIDS 書記)																
渉外	長神新之介 (KIDS 副会長)																
事務	横山正明 (KIDS)																
広報	村田庸介 (KIDS 広報)																
<p>準備に要した日 数・時間</p>	<p>準備期間</p>	<p>2006 年 8 月～2006 年 11 月</p>															
	<p>準備総時間</p>	<p>約 50 時間</p>															
	<p>上記の内打合せ回数</p>	<p>定例 2 時間 × 9 回 作業 5 時間 × 6 回</p>															
<p>教育関係への 働きかけ</p>	<p>働きかけた教育関係者・ 機関名</p>	<p>①京都市教育委員会 ②左京区の小学校</p>															
	<p>どのように働きかけたか</p>	<p>①こちらからプランを持参し、教育委員会に伺った。 ②NPO 法人京都こどもセンター、左京区役所を通じて近隣の小学校内での周知を依頼した。</p>															
	<p>結果</p>	<p>①うまくいかなかった。 ②周知いただき、数組本プランに参加いただいた。</p>															
<p>地域への 働きかけ</p>	<p>働きかけた地域の人・ 機関名</p>	<p>①左京消防署 ②地域紙 (左京ボイス) ③左京区の公民館</p>															

	どのように働きかけたか	①こちらからプランを持参し、伺った。 ②左京区役所を通して、掲載を依頼した。 ③チラシを持参し、掲載を依頼した。
	結果	①起震車を出勤、プログラムに協力していただいた。 ②掲載していただき、1組参加いただいた。 ③チラシを掲載させていただいたが、掲載時期が遅すぎたため、効果がなかった。
保護者・PTAへの働きかけ	働きかけた保護者・PTA組織名	NPO 法人:京都こどもセンター
	どのように働きかけたか	知り合いに周知いただくよう依頼した。
	結果	周知していただき、1組本プランに参加いただいた。
機材・教材の準備方法	用意した機材・教材	○機材 起震車、スクリーン、プロジェクター、PC、プリンター 模型作成用の机 ○教材 手作り模型、KIDS オリジナル模型キッド、模型材料 手作り模造紙 パワーポイント
	入手先・入手方法	○機材 起震車は左京消防署に出勤いただいた（無料） スクリーン、プロジェクター、机は会場にて借用（有料） PC、プリンターはスタッフが持ち込み ○教材 全てKIDS スタッフによる手作り
	機材・教材選定の理由(なぜこの機材・教材を選んだのか)	○機材 起震車→体験型のイベントを実施するため プロジェクター→震災当時の写真などインパクトのある素材を映すため ○教材 温かみのある教材で、子供達に親近感をわかせるため
参加者の募集	募集方法	○左京区内の教育機関、地域、保護者へのチラシ配布・掲示 ○マスコミでの広報（左京ボイス）
	募集期間	2006年10月15日～11月18日
	参加予想人数	30名
	実際の参加人数	20名
	募集方法の成功点	○知り合いとのつながりで、参加者を募れた。 ○防災に興味のある親子さん数組に参加いただけた。
	募集方法の失敗点	全体的に募集に関しては大幅に失敗した感がある。 ○広報を実施し始めるのが遅すぎた。 ○申し込み制にしたせいなのか、地域紙に掲載されても反応が薄かった。 ○この日は他のイベントと重複していた可能性がある。 ○もっと色々な機関にこちらから働きかけるべきであった。
準備で苦労した点・工夫した点	○すべて手作りで教材を作成するには、今のKIDS スタッフの数では不足しており、準備に長い期間を要した。 ○プログラムに協力いただけるように依頼した団体との都合の日時が合わず、交渉・打ち合わせの日時調整が難しかった。 ○打ち合わせ時間が不足しており、プラン実施の際に少しスタッフ間で混乱が生じた。 ○自前の機材・教材がとて多く、また会場に運ぶ手段が限られていたため、苦労した。	

IV タイムスケジュール（プラン立案から実践終了までのスケジュールを記載して下さい。）

	プラン立案	実践にあたっての準備	実践
2005 11月		定例（5回）	
12月		定例（3回）	
2006 1月	○「防災教室」基本軸を決定	定例（3回）	
2月		定例（4回） ○教材の作成 ○2/28 京都市立音羽川小学校にて防災教室	
3月		休み	
4月	○防災教室プランの見直し	定例（4回）	
5月		定例（5回）	
6月		定例（4回） ○教材の作成 ○6/26 名古屋市立楠小学校にて防災教室	
7月		定例（4回） ○7/28 京都大学東南アジアに連携依頼	
8月		定例（5回） ○8/25 伏見工業高校に連携以来 ○8/30 左京区役所へ協力依頼	
9月	○これまでの防災教室を踏まえて防災教室のプラン見直し	定例（3回） ○9/12～19 インドネシアの小学校にて防災教室 ○会場の決定 ○消防署へ協力依頼 ○9/26NPO 京都こどもセンターに協力依頼 ○9/末「左京ボイス」に掲載依頼	
10月		定例（4回） ○10/18 京都市立伏見工業高校にて第1回ワークショップ ○教材の作成	
11月		定例（5回） ○本プラン広報チラシ作成・掲示開始 ○教材の作成 ○11/11 京都市立伏見工業高校にて第2回ワークショップ	○11/18 京大会館にて本プラン実践 ○反省会
12月		定例（4回） ○12/27 京都市立伏見工業高校にて第3回ワークショップ	○各自報告書作成
2007 1月		定例（3回） ○1/15 インドネシア人講師を対象に防災教室	○全体報告書作成

V実践の詳細 【B. イベント】(短期集中型のプログラムを45分を1コマとして記入して下さい。)

タイトル	KIDSの防災教室			
実施日	11月18日			
所要時間	40分	20分	20分	60分
プログラム名	基礎知識の学習	被災体験談	起震車体験	模型を作ろう!
達成目標	災害、防災についての基礎事項を学習する	災害の怖さを知る 地震を知る	地震を体験し、地震の怖さを再確認する	地震時の危険を知り、対処法・防災について考える
生成物	書き込みのされた防災マップ			ジオラマ模型
進め方 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・軽い自己紹介をする。 ・プレートの発生から地震・津波の発生までを時系列で説明する。 ・高校生達が作ったGISを用いた防災マップを高校生自身から紹介してもらう。 	震災体験者が主に阪神・淡路大震災の写真を用いて、被害の様子や家族で話し合う事、地域での助け合いの大切さなどを実体験を交えながら説明する。	<ul style="list-style-type: none"> ・起震車に乗り、実際の地震動を体験してもらう。 ・親子で今どのような対策ができるかをKIDSを含めて話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域マップの一部をモデルとして模型を作成する。 ・その模型を揺らし、地震時の危険、対処法などのフィードバックを行う。 ・最後に授業全体を通してのまとめを行う。
ツール (特別に用意したもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・手作りの仕掛け模造紙 ・プロジェクター、スクリーン、PC 	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクター、スクリーン、PC 	<ul style="list-style-type: none"> ・起震車 	<ul style="list-style-type: none"> ・KIDS オリジナル模型キッド ・模型材料 ・のり ・色鉛筆
場所	京大会館会議室		京大会館(起震車待機)	京大会館会議室

VI実践後

参加者へのアンケート結果	<p>○小学5年生「地震の怖さがイメージできた。避難方法などを家の人と話し合いたい。」</p> <p>○保護者「パワーポイントを用いたということもあり、とてもまとまった話だと感じました。よく役割分担されていて、個々のくわしい説明で、よく理解することができました。少し思ったのですが、写真をもう少し増やして具体的に表現すれば・・・というのが自分として感じた意見です。」</p> <p>○高校生スタッフ「KIDS の行っている授業や活動の話では、小学生などに地震の怖さを伝えているもので、僕らが小学生の時にそんな授業を受けていれば意識が高くなったのだろうと思えました。」</p>	
成果として得たこと	<p>○体験型プログラムは子供たちの反応がよく、たくさんの子供たちにとってより効果的な授業に近付いた。</p> <p>○スタッフ同士でより親しくなることができ、今後も KIDS の活動に協力いただけるとの言葉をいただいた。</p> <p>○授業後も掲示板やメールなどで参加者とやりとりをしている。</p> <p>○各防災教室ごとに連携団体・協力団体が増えている。</p>	
成果物	<p>○防災教室企画書</p> <p>○防災教室報告書（一部作成中）</p> <p>○KIDS2006 プロジェクトブック（作成中）</p> <p>○活動写真</p> <p>○参加者からのアンケート結果</p> <p>○新聞掲載記事</p> <p>○たくさんの模型</p> <p>○KIDS タイムズ</p>	
広報方法	広報した先	以前に取材を受けたことがあり、面識のある新聞社
	広報の方法	メールにて本プラン実践の告知を送付した。
	取材にきたマスコミ	大手新聞社 2 社
	広報された内容（掲載された記事・番組等）	12月6日付けの毎日小学生新聞.に第一面に掲載 毎日新聞に掲載
	成功点	<p>○面識者に対してはメールなどによる本プランの告知を早めに行ったため、結果的に 2 社からの取材を受けられるという形をとれた。</p> <p>○結果的に、会場の収容能力から考えると 2 社という取材数がちょうどくらいであった。</p>
	失敗点	○こちらから積極的に広報を行うという姿勢が少し欠けており、もう少しうまく広報ができたであろうと考えられる。
全体の感想と反省・課題	<p>○せっかくの少人数対象の教育の利点がまったく生かせなかった。こども一人にたいしてスタッフ一人がついて授業をすることもできたはず。スタッフ同士のフォローもなく、全体を通してばらばらな感じと一方的な授業のイメージを受けた。</p> <p>今回はじめての、地域住民を対象とした防災教育をして、少人数型のプログラムの見直しが必要であると感じた。より双方向性を意識した授業が可能であろうし、またすべきである。伏見工業高校、消防署との連携もいまひとつであったことが大きな反省点。なによりも一番の反省点は準備不足であった。次回に向けて、各個人、各パート、授業自体のそれぞれに大きな反省点と得るものがあった授業だったと思う。</p> <p>○こういった形式のセミナーは初めてだったということもあるが、小学校でやる授業形式と違い、事前のリハーサルで時間構成をチェックしにくい部分が大いという難しさがあり、</p>	

	<p>さらには全体で通したりリハーサルの時間が取れなかったこともあり、前半から大きく予定と異なってしまった。準備不足であると同時に、今回のようなセミナー形式では特にフレキシブルな時間設定や構成が大事だということも感じた。また、こういったセミナーに対しては、もう少し早めに人数と対象を確定してしまうことができれば、より対象を考慮した授業構成を考えられたのではないか。なかなか人が集まらず、いろんな方に広報を手伝ってもらう中で、対象が低学年から高学年と幅広くなった。もちろんいろんな人に来ていただけるのはうれしいこと。ただ、それを受け入れ、対応しきれだけの準備ができていたかという、いろいろ至らない点もあったと思う。今回を新たな活動スタイルの出発点とし、今後セミナー形式の活動もさらに良いものにしていけたらと思う。</p> <p>○新しい試みをしたことでよかった面もいくらかあったが、それ以上に準備不足が表にでた授業だった。メカニズムの仕掛け模造紙や模型の段取りなど、事前に話し合っておくべきことが全く出来ていなかった。授業に臨むにあたって、最低1回はリハーサルが必要であることが良くわかった。</p> <p>○今回の防災教育ではいつも以上に子供たちとの距離が近かったことが特によかったと思った。模型を一緒に作るという試みは初めてで、その進行方法や具体的手段に改良の余地があるとはいえ、子供たちと直接話す機会が大幅に増えたこと自体に意義があったように感じた。</p> <p>○Considering KIDS as a quite experienced team in conducting a disaster prevention education projects to elementary school students for more than one year, the flow of activity in each project became established and somehow proved that the way this team introduces disaster is more understandable for children. For example, instead of just doing the power point presentation and lectures, KIDS also uses some medias or models to help the children imagine about what's inside the earth, how earthquake happens, and what happen to a city if earthquake happen. This is the really good points KIDS has done. However, this established method will always need to be improved in more creative ways, and the points that need to be improved can be analyzed through each activity done before.</p>				
<p>今後の予定</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="469 1167 735 1339"> <p>来年度以降の進め方</p> </td> <td data-bbox="735 1167 1383 1339"> <p>OKIDS では継続的な「防災教室」の実施を予定している。 (「防災のきっかけ作り」という基本軸は変えず、プログラムにちょっとした刺激や地域性を持たせることで、授業に変化をもたせる予定)</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="469 1339 735 1442"> <p>是非実施してみたい 取り組み</p> </td> <td data-bbox="735 1339 1383 1442"> <p>OKIDS の課外授業</p> </td> </tr> </table>	<p>来年度以降の進め方</p>	<p>OKIDS では継続的な「防災教室」の実施を予定している。 (「防災のきっかけ作り」という基本軸は変えず、プログラムにちょっとした刺激や地域性を持たせることで、授業に変化をもたせる予定)</p>	<p>是非実施してみたい 取り組み</p>	<p>OKIDS の課外授業</p>
<p>来年度以降の進め方</p>	<p>OKIDS では継続的な「防災教室」の実施を予定している。 (「防災のきっかけ作り」という基本軸は変えず、プログラムにちょっとした刺激や地域性を持たせることで、授業に変化をもたせる予定)</p>				
<p>是非実施してみたい 取り組み</p>	<p>OKIDS の課外授業</p>				
<p>自由記述</p>	<p>○中間報告会時にアドバイスをいただけ、本プランがより充実したものになったと考えている。これからもアドバイスや協力を受けながら、より意義深い KIDS の活動を展開できればと考えている。</p>				